

お話の学習指導案

教育目標

題名 ・ パク・ジュンウォンが花を見るほうほう (方法)

年齢 ・ 児童(6~9歳)

主題 ・ 目標:見かけだけを見て、はんだんしなかったパク・ジュンウォンのかしこさについてしる。
・ 主題:ちえ

キーワード ・ ちょうせん、パク・ジュンウォン、こじき、花、金もち、かおり、ふくろ、学者 (がくしゃ)

韓国文化 ・ 目標:お話をきいて、ふくろについてきょうみをもつ。
・ 要素:ふくろ

韓国語

- ・ 目標:お話をきいて、音がにているけどいみがちがうたんごをならってみる。
- ・ 単語: 아깝다 (もったいない)、아끼다 (おしむ)
- ・ 表現:
백 냥을 주려니 아까웠어요.
(100りょうをあたえるのはもったいないです。)
백 냥을 아끼려고 거짓말을 했어요.
(100りょうをおしもうと、うそをつきました。)



口演 活動内容



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、こんにちは！
みなさん、こんにちは。わたしはみなさんにたのしいお話を‘○○○’、
うつくしいお話のおばあちゃんです。



題名 を教える

今日、おばあちゃんがするお話は、だいめい、さっさと出てこい！
"この花を見るほうほう(方法)"です。
みなさん、お花がすきですか？おばあちゃんはすきなお花がおおいです。はる
にさく、レンギョウのきいろがすきです。なつにさくムクゲは、さいて、おちて、ま
たさくようすがうつくしいですね。あきにさくきくは、かおりがすきです。ふゆにさ
くつばきは、あかいろがうつくしいですね。人びとは花のいろを見たり、かおり
をかいだりします。今日はおばあちゃんのようにお花がすきな学者(がくしゃ)
のパク・ジュンウォンのお話です。パク・ジュンウォンが花をどれだけすきだった
のか、おばあちゃんといっしょにお話をきいてみましょうか？



お話の始まりの歌を歌う

"この花を見るほうほう(方法)"のお話の中へしゅっぱつ！
♪ いち にい さん し！ お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきい
てみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～

口演 活動内容



お話を聞かせる

むかしむかし、ちょうせんという国がありました。ちょうせんには花を人一倍いすきな学者(がくしゃ)、パク・チョンウォンがくらしていました。パク・チョンウォンはひまができるとにわに花をうえて、そだてることでゆうめいでした。人びとはこのようなパク・チョンウォンを‘花の学者(がくしゃ)’とよびました。

ある日、パク・チョンウォンがお花ばたけに水をあげていると、そとがさわがしくなっていました。パク・チョンウォンはなにごとかと出てみると、1人のだんせいと子どもがもめごとをおこしているではありませんか。だんせいはせいが金さんといい、お金もちで、人びとは金もちのキムさんとよびました。そして、子どもはなん日かあらえなかったのか、あたまはぼさぼさで、かおにはくろいよごれがいっぱいついていました。ふくもあちこちによごれがついてきたなく、あながあいていました。金もちのキムさんは子どものあたまをつかんで、こえをたかめました。

"おい、このこじきやろうが、いったいだれをだますんだ?"

"あやや、もうたたくのはやめて、お金をください!"

"お金? そうだな、お金をあげるから、ぬすんだ金のゆびわを出せよ!"

"はあ、ぼくは金のゆびわをぬすんでいませんよ!"

金もちのキムさんと子どもはおたがいにもけないで、こえをたかめました。パク・ジュンウォンはけんぶつ人たちに、なにごとかきいてみました。

ふだんからよくうたがってばかりいる金もちのキムさんは、めしつかいたちはもちろん、かぞくもしんじられませんでした。そのため、いつも金のゆびわなどを入れたふくろをこしにつけていたらしいのです。

口演 活動内容



お話を聞かせる

しかし、なん日まえかに、そとに出てふくろをおとしたんです。よるおそくまですべての村をすみずみまでさがしましたが、ふくろをさがせませんでした。けっきょく、ふくろをさがした人にしょう金として100りょうをあたえるとしたのです。

"そしたら、その子どもがふくろをさがしたのか?"

"はい、そうです。それなのに、金もちのキムさんがいうにはふくろにあった金のゆびわが2つ、なくなったというのです。"

"あ、だからあんなにこえをあげていたのか。"

金もちのキムさんはあいかわらず目をいからして、子どもにこえをはり上げていました。

"おまえでなければ、だれが金のゆびわをもっていったというのか。"

"さいしょから5つしかありませんでした。ほんとうです。だから、すぐにやくそくの100りょうを下さい。"

"だめだよ、ものをぬすんだのに、かんがにしんこくしなければいけない!かんがに行こう。"

"やあ、いやだよ!"

子どもがびくっとすると、金もちのキムさんはより、いきようようとして、人びとにこえをはり上げました。

"みんな、見ただろ?金のゆびわをぬすんだから、かんがに行くのがいやなのだろう!"

人びとはいいふくをきている金もちのキムさんのみかたになりました。

"そうだな!こじきだから金のゆびわをほしいだろうさ!"

口演 活動内容



お話を聞かせる

人びとが金もちのキムさんのみかたをすると、子どもの目にはなみだがじんとにじみました。

"どろぼうをすることは!ほんとうにおこられないとな。さあ、すぐにかんがに行こう!"

金もちのキムさんが大きいこえをはり上げると、子どもはけっきょくなき出しました。

このすがたを見ていたパク・ジュンウォンが人びとのまえにあらわれました。人びとはかしこいパク・ジュンウォンがなんというか、きになりました。

"2人ともうそをついているわけではありませんよね?"

"もちろんです!ふくろには金のゆびわが7つ、ありました。"

"ちがいます!ふくろには金のゆびわが5つ、ありました。ぼくはほんとうに、金のゆびわをぬすんでいません。しくしく。"

パク・ジュンウォンは見ぶつ人たちがみな、きけるように、大きなこえで言いました。

"わたしが見るには、2人ともうそをついているようではない。しかし、金もちのキムさんはなくなったふくろに金のゆびわが7つ入っていたとします。ところで、子どもがひろったふくろには金のゆびわが5つ、入っていました。そしたら、子どもがひろったふくろは金もちのキムさんのものではないようです。"

パク・ジュンウォンは子どもに言いました。

"このふくろはもちぬしがいないようだ。もっていて、もちぬしが出てきたらかえして、もちぬしがみあたらないなら、きみがもらいなさい。"

口演 活動内容



お話を聞かせる

パク・ジュンウォンのことばをきいた金もちのキムさんはとても、おどろきました。お金の100りょうをもったいないと、金のゆびわをすべてなくしてしまうか、とともしんぱいしたのでしょうか。

"あ、わたし、、、わたしがまちがっていました!この子どもにお金をわたします。"

"え、ふくろをさがしてもないのに、なぜこどもにお金をあげるのか?"

パク・ジュンウォンがしらばっくれてはなすと、やっと金もちのキムさんがじつをうちあけました。

"じじつ、さいしょからふくろには金のゆびわが5つありました。ふくろをさがした子どもに100りょうをあげるのがもったいなくて、そうしたのです。金のゆびわがなくなったとうそをついてふくろもさがせて、しょう金の100りょうもおしもうとかんがえました。"

見ぶつしていた人びとはみな、とてもおどろきました。

"まあ、それにしてもひどいなあ!"

"金もちのキムさんはよくばりでうそつきなんだな!"

金もちのキムさんは人びとのことばをきいて、とてもはずかしくてかおがあかくなりました。

人びとがパク・ジュンウォンによってきて、どうやって金もちのキムさんがうそをついたのがわかったのか、たずねました。そうするとパク・ジュンウォンはにっこりとわらい、へんじをしました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

"わたしの花ばたけの花を見てください。きいろの花、あかい花が見えるでしょう？きいろの花はかおりがほのかできれいで、あかい花はかおりがあまくてあいらしいです。花を見るときに目には見えないものまで見えたら、ちゃんと見たと言えるのです。それは人もいっしょなのです。"

パク・ジュンウォンのはなしは目に見えるものだけで人を見てはいけないということです。こころで見て、たいせつなものを見ることができるということでしょう。こじきの子どもの見た目だけを見て、金もちのキムさんのみかたになった人びともパク・ジュンウォンのことばにかおがあかくなりました。

口演 活動内容



韓国文化, 韓国語を紹介する

みなさん、おばあちゃんがしたお話をよくききましたか？

金もちのキムさんはふくろに金のゆびわが7つ入っていたとうそをつきました。なぜ、そうしましたか？そうですね。こじきの子どもにしょう金の100りょうをあげるのがもったいなかったからです。だから100りょうをおしもうとうそをつきました。‘おしむ (アッキダ)’という音にいた音のことばがあります。それは‘もったいない (アッカプタ)’です。‘アッキダ’と‘アッカプタ’は音がにっていますが、いみがちがいます。‘アッキダ (おしむ)’はなにかをたいせつにするといういみです。そして、‘アッカプタ (もったいない)’はなにかを出すことがいやだといういみです。みなさんもりょうしんといっしょに、音はにているけれど、いみがちがうたんごをさがしてみましょう。

みなさん、金もちのキムさんはおしむ金のゆびわをふくろに入れていました。ふくろがなにか、していますか？

むかしはハンボクにしなものを入れることができるポケットがありませんでした。そのため、ふくろをつくり、つかいました。金もちのキムさんのように、こしにふくろをつけたりもしました。ふくろは入りをゆるめたり、しめたりすることができるひもがあります。ひもをひっぱると、入りがしまり、ひもをゆるめると入りがひらきます。かたちはかどが出たものもや、まるいものもあります。かどが出たものは‘きんちゃく’とよばれ、まるいものは‘まきぶくろ’とよびます。さまざまないろのぬので、いろとりどりにつくったりもして、きれいなししゅうを入れてかざったりもしました。

ふくろにきょうみがあるおともだちは、‘どらんどらん お話ホームページ’でくわしくないようをさがしてみてね！

口演 活動内容



お話を整理する

みなさん、おばあちゃんと"この花を見るほうほう(方法)"のお話をせいりしてみましょう。

学者(がくしゃ)のパク・ジュンウォンは子どもの見た目を見て、さきにはんだんしませんでした。そして、うそをついた金もちのキムさんにじぶんでまちがいをはんせいするきかいを上げましたね。パク・ジュンウォンのように、わたしたちもよくよくかんがえて、かしこくもんだいをかいけつできます。みなさんもたいへんなことがおきたら、あせらないでじっくりようすを見て、けんめいなほうほう(方法)がなんなのか、さがしてみてください。



お話のあとのうたをうたう

そしたら、お話のおわりのうたをいっしょにうたいながら、おばあちゃんとあいさつします。お話のおわりのうた、はじまり！

♪ いち にい さん し！お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、ごあいさつ！

みなさん、つぎのうつくしいお話のおばあちゃんであいましょう。
さようなら！